潜在危険性

健康

- **極めて毒性が強い**：吸入、経口摂取、皮膚からの吸収により致命的になるおそれがある。
- 溶融物に接触すると皮膚や眼に激しい炎症を起こすおそれがある。
- 皮膚との接触を避ける。
- 接触や吸入の効果は遅れて現れるおそれがある。
- 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 消火水や希釈水は腐食性及び／又は毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。

火災・爆発

- 可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。
- 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
- 漏洩すると排水溝を汚染するおそれがある。
- 溶融状態で輸送されることがある。

公共の安全

- **まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。**
- 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 関係者以外は近づけない。
- 風上に留まる。
- 低地から離れる。

保護具

- 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- 製造者により特に推奨された化学用保護衣を着用する（耐熱性がないおそれがある）。
- 防火服は限られた防護をするに過ぎない。漏洩時に効果はない。

避難

洩時

- 風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

小火災

- 粉末消火剤、二酸化炭素又は散水を用いる。

大火災

- 水の散布、噴霧又は通常の泡消火剤を使用する。
- 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
- 消火水をせき止め、後で廃棄する：物質を拡散させてはいけない。
- 散水又は水噴霧を用いる。棒状注水で消火しない。

タンク火災あるいは車／トレーラーの積荷火災

- 可能な限り遠くから無人ホース保持具やモニター付ノズルを用いて消火する。
- 容器内に水を入れてはいけない。
- 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
- 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。
- 大火災の場合は無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する；これが不可能な場合にはその場所から避難し、燃焼させておく。

漏洩時

- 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- 危険でなければ漏れを止める。
- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは狭い場所への流入を防ぐ。
- プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
- 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。
- 容器内に水を入れてはいけない。

応急手当

- 被災者を新鮮な空気の場所に移す。
- 救急車を呼ぶ。
- 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- **被災者が（有害）物質を飲み込んだり、吸入したときは口対口法を用いてはいけない；逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適当な医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。**
- 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15［20］分間洗浄する。
- 皮膚への接触を最小限とするため、付着物を拡散させないようにする。
- 被災者を温め、安静にする。
- 物質への暴露（吸入、吸飲、皮膚接触）の影響は遅効性のおそれがある。
- 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。